

オフィス部門の問題解決・改善力を高める

# QC実践セミナー

管理・間接・スタッフ部門向け

開催日時 **2025年 5月23日(金)** オンライン  
**2026年 1月27日(火)** オンライン 各回とも 10:00～16:30

【製造業・製造現場向け】  
プログラムの会期もございます。

対 象 管理・間接部門、スタッフ部門にご所属で  
・改善リーダーの方 ・改善活動にQCツールを役立てたいとお考えの方

講 師 石川 秀人 氏  
コンサルソーシング(株)  
フェロー・コンサルタント

参加料(税込) 法人会員：50,600円/1名  
会 員 外：56,100円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。  
※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)  
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。  
<https://www.jma.or.jp/membership/>  
※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

ね ら い 管理・間接・スタッフ部門向けでQCツールを活用したい方へ

多くの職場で導入・活用されているQCツールですがつじつま合わせの後付け資料になっている、改善活動にあまり役立てられていない、グラフや表を作っているだけというケースがよく見受けられます。

**改善を活性化させるには、まず場づくりがきちんとできていることが前提**です。そのうえでQCストーリーの流れから7つ道具を目的に合わせて使い、PDCAをしっかりと回していくことが大切です。

本セミナーは、**管理・間接部門の方向けにプログラムを構成しており、より実務に活かしやすくなっています。**

- ☑ 属人化していてチーム活動ができない
  - ☑ 改善しても効果がよくわからず意義がわからない
  - ☑ 上から言われたので形だけ活動している
- とお悩みの方はぜひご参加ください。

## 参加者の声

- ・結論ありきの意見で検討することに課題を感じていたが、QC手法を利用して視野を広げて課題を見直すことができ、改善策の幅が広げられそうだと感じた。
- ・要因を洗い出すためにどうするか、間接部門ならではの考え方が非常に勉強になった。
- ・言語データをいかに定量化するかについて学ぶことができ、目からウロコでした。
- ・さまざま手法をどんな目的で、どのように使用するのか知ることができた。個人のメリットを改善活動に結び付けることが大事という部分が心に残った。
- ・今まで学んできた製造系のQC手法とは違う視点からの考え方や物のとらえ方を教えてもらい、勉強になった。参加者の積極的な質問・あい、知識を増やすだけでなく自分とは違う気づきを得られた。

## ■ プログラム

10:00～16:30 [昼食] 12:00～13:00

### 1 QC的問題解決アプローチとは

- ・QCを正しく理解し、問題解決ストーリーを体得する
- ・オフィスにおける7つのムダとは
- ・管理、間接部門、スタッフ部門での改善の進め方
- ・歯止め、標準化で後戻りさせない、誰でもできる化

### 2 製造業と異なる管理・間接部門、スタッフ部門での取り組み方

- ・数値データではなく言語データを収集する
- ・定量的分析ではなく定性的に分析する
- ・改善の場づくりと全員参加の進め方

### 3 管理・間接部門、スタッフ部門で使えるQC7つ道具、新QC7つ道具を理解する

- (1) 演習 チェックシートで“悪さ”をチェックし、積極的にムダを見つける
- (2) 演習 グラフは日々管理にこそおすすめ。日々管理で作業者の意識づけができる

- (3) 演習 層別した中から重要視する項目を抽出するパレート図の使い方
- (4) 演習 カードを用いて意見を発散・集約する親和図法
- (5) 演習 発表用資料になりがちな特性要因図。モグラたたき、形式的対応、タコつぼ化などをなくす
- (6) 演習 連関図法で相互作用的要因を追究する
- (7) 演習 なぜなぜ分析で原因を追究する
- (8) 演習 マトリックス図法で要素間の関連性を見つける
- (9) 演習 系統図法でヌケ・モレを予防する
- (10) 演習 アロー・ダイアグラムで重点管理対象作業を明確化する
- (11) 演習 PDPC法で阻害要因への対処を検討する

### 4 QCストーリー作成を助ける論理的思考法

- ・前提・仮説・検証のフレームワーク
- ・Whatツリー、Whyツリー、Howツリー

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

